



今月の予定

三位一体の主日 6月2日  
委員会 6月9日  
神父様霊名祝日 6月29日  
サロン 6月9,23日  
レジオ 6月14,21,28日

委員会だより

<5月12日(日) 8名出席>

- 【1】財務報告：4月度決算報告(ご復活,堅進式お祝いパーティー等) (甲斐,福島委員)
- 【2】お知らせコーナー
  - (1)宮下神父様4/22帰天。4/24前夜祭、4/25告別式 於山手教会。緊急事態なので神父様、一部委員と相談の上、ご香典 教会¥50,000(教会30,000+山崎神父様20,000)、壮年会¥10,000、婦人会¥10,000。
  - (2)4/7ご復活、4/28堅信式お祝いパーティー無事終わり、皆様のご協力感謝します。
  - (3)山崎神父様出張5/24~5/26 日本鉄道カトリックの会 於倉敷 留守当番都合よろしい方ご協力下さい。尚、5/26(日)ごミサ AM7:00、AM9:00は鶴飼神父様がおいで下さいませ。
  - (4)教会補修工事おおよそ終わったが、一部残工事あり。祭壇右側回転窓、雨漏り3カ所、近日中完了の予定。
  - (5)第4回横浜教区福祉委員会主催セミナー 於横浜カトリックセンター 日時6/15(土) 10:30~15:30 締め切り6/9

【3】お話し合いコーナー

- (1)催し物等で土足開放の場合、現在の掃除機では容量不足の旨、婦人会長より指摘があり、花坂委員が調査検討して委員会に諮る。
- (2)石井委員より、ミサ後の聖歌練習継続の旨報告あり。また小谷氏より、譜面台を寄贈頂いた旨披露。
- (3)小野寺副委員長より、青少年対策を考える会(仮称)のその後の動きの報告あり。アンケートの結果集計表について小野寺、鈴木、岩崎、山本、小山委員連盟の回答、岩崎さんの青少年への呼びかけ書及び広報なかかわだを対象者にお送りすることとした。
- (4)広報なかかわだに青少年コーナーを設けることとした。寄稿をお待ちします。
- (5)中和田住居表示の替わった方は、事務所に届け下さい。
- (6)清水委員長よりバザー委員会発足の依頼あり。壮年会、婦人会の委員を決めて下さい。保健所届け書類の関係で総責任者:清水 総会計:甲斐氏 催しまとめ:花坂氏

壮年会だより

<5月19日(日) 12名出席>

- > 委員会報告
- > 箱根駒ヶ岳ハイキング報告 (山田さん) 今回は最大の参加人数18名(男5名、女13名)

風が強くて大変だったが無事成功し、全員に満足して頂けた。

- > 一粒会の件 (小谷委員) 司教様から林神父様のお祈りのお願いがあったとのこと。5月22日に虎ノ門病院にて手術の予定。
- > 藤沢教会より朗読者研修会の案内 (平瀬委員) (詳細は、お知らせの欄参照)
- > 青少年問題 (小野寺委員より) 長い目で見守って欲しい。中和田教会からの報告は、他教会でも大変注目されている。
- > 朗読本 朗読本のB5版がある。見易いので利用することにしたい。

婦人会だより

<5月19日(日) 39名出席>

- > 委員会の報告
  - > 恒例の遠足 お天気と大勢の参加者で無事に終わりました。
  - > 一粒会 担当の小野さんより、一粒会の説明があり、皆様のご同意により婦人会として一粒会に入会することになりました。
  - > 婦人同志会より黙想会の案内が有りました。6月26日(水) 藤沢教会 尚、詳細は掲示板に貼り出します。
  - > 6月のバザー奉仕日 6月5日(水)、6月17日(月)です。
  - > 古着の販売 6月2日(日)、6月9日(日) ミサの後行います
- 次回例会 6月16日(日) お茶当番はA地区です。宜しくお願い致します。



- \* 下水道工事のため、5月27日~7月15日の間、地区センターから教会までの道路に車が入りませんのでご注意下さい。
- \* 朗読者研修会が7月7日、8月4日、11~12時半、藤沢カトリック教会聖堂にて開催されます。井上浩氏(元NHKアナウンサー)のご指導で実践的訓練ができます。希望者は平瀬さん迄(6月10日まで)
- \* 五十嵐貞也氏は藤沢湘南病院に入院されていましたが、経過良好で五月中にもご退院の見込みです。



模索の冊 (下)

山崎 正俊

○ ジャンヌ・ダルクと蓮如に関する評伝を読んでいた。著者の大谷暢順さんは「本願寺連枝」と略記されている。私には、それがどのようなものであるかよくわからないのだが、千九百二十九年に京都で生まれた学匠らしいと感じられるだけ、史書に類する著述だからだろう、敬称は除かれている。蓮如に就いては「本願寺第八代の法主」、ジャンヌ・ダルクは二十才ぐらいで魔女として焼き殺されても、二十五年後に法王庁よっての復権があったとあり、いずれも、偉大な生涯を「まっとうし切った者」と、その言葉をおさえながら述べられている。蓮如についてのウワサなど、私の認識は改めさせられてしまい、不足を補う知識が与えられるほどになったうえに、尊敬と信頼にたるものになった。ジャンヌ・ダルクのほうは、カトリック教会に伝えられていることをそのまま受け入れていることに変わりがないままの聖人であり、アヤシゲな裏話は信じたくはないが、ありそうなこととしての雑念のうちにもつれた。

○ 宮下神父様のことに就いては、いつもとはこと違って、おそばで後半生の三十年近く世話なされたお方からの電話がメグリメグッてもたらされ、教区のファクスは三度目に正確なものになった。大江さんたちの二冊目の近著「ゆるやかな絆(きずな)」に心ひかされていたので、そのときの涙はまったく別のもののはず。人の死は突然の知らせだから、頭のなかは空っぽになるの

があたりまえの事。

いつか ふたりが会ったら  
ぼくだとわかるかな きみだと

或る詩の終りのこの二行ほどは、いまま私の内に、優しくコダマしている。

○ はじめての教会に赴任してからの、主任神父とのかかわりは、私に洗礼を授けてくださったおかたの言葉――

洗礼を受けてみる  
そのよさがわかるようになるよ

それに続いたはずの繰返しし言葉――

「あいつは ヨイヤツだ」

ふたつともに、納得できたわけではない。

その意味はあいまい いまも  
キリスト狂いで イカレ者の俺

どのお方々もその刻になると、次々と消え去っては、それでよしとされるようだ。

○ 私のこれまでが、クダラナイことばかりの継続でも、その足跡など役立つものとなっていると思定めているのは、同じことをしはじめたら、別の道が正解に近いので――

これからの余生も 似たもの  
そこびえのする古沼 山奥のよどみ  
こりゃ どうじゃ

1996.4.29



生きる意味

加藤 英雄 (東京教区司祭)

僕たちは生きている。朝になって目が覚めて一日が始まる。僕は時々、ミサが終わって、朝の青空を見る。静かな青空。朝の空はきれいだと思う。鳥がさえずりながら飛んでいる。そして、今日も忙しくなると思いながら、ご飯を作り始めるのだ。

ふと、子どものころはどうだったか考えた。子どものころは、自分の人生を考えたことはなかった。でも、いろいろな本を読んで、人が生きるのには、人に会って行く、出来事に出会うことなんだと思っただ。子どもは、人からこれがおまえの社会だよと与えられた所で生活する。家庭、学校、友達。大人の生活はまったく違う。きつと、毎日毎日知らない人と会い、知らなかった出来事と出合っているのだろう。僕は、知らなかった出来事と出合っているのだから、自分で選べるのか。

父母が許さなくても、自分でなりたいたい者、行きたい道にいけるのか。子どもが一人前になるのは、自分の世界はもう与えられるものではないということだと思ふ。今、生きている。今、学生である。今、働いている。それは自分が責任を持って、生きています、勉強しています、働いています、ということなんだ。

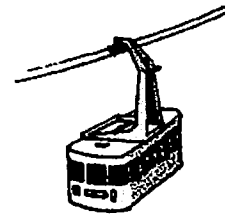
では、生きて何をやる。何のために勉強する。なぜ、そんなに働く。

ある人は、この命は自分で選んだものではないという。勉強するのは学校があるから。学校へ行けば楽で、遊べるからだという。そんなのはまるで幼児だ。僕たちは命をもらって生きている。これは素晴らしい、うれしいことだ。この命はだれにももらった。神様にももらった。神様にももらった。でも、命を神様からもらった。これを忘れてはいけない。勉強は人がつくったものを学ぶのではないと思う。神様がつくった世界を学ぶ。宇宙を学ぶ。人間の姿を学ぶ。

人は何のために生きているのか。人は神様と出会うために生きているといってもよいかもしれない。神様はどこにいる。生きようとしている人の中にいる。正しいことを求めている人の中にいる。神様に出会うには、生きようとしている人と一緒に生きる。正しいことを求めている人と一緒に正しいことを求めるんだと思う。生きる意味は神様と出会うため。神様と出会うには正義のために働く、人がみんな安らかさの中で生きられるよう働く。生きる意味は人のために働くことだと思ふ。神様の発見、そして自分の発見がある。神様ですっごくいい!

(カトリック新聞より転載させて頂きました)

特集 春のハイキング



ハイキング 箱根駒ヶ岳

小野 和江

「箱根ハイキング」へ参加して

上野 明子

寝転ぶのが好きで、体力がないと自認している私が、"芦ノ湖を見下ろしながら、新緑の箱根路を歩くのもいいなあ"と、5月11日(土)のハイキングに勇んで参加した。

晴天に恵まれ、朝7時半前には、皆張り切って戸塚駅へ集合。小田原からは、バスで一路駒ヶ岳の麓へ。そこから7~8分ほど、ロープウェイで山頂へ。煙るような黄緑の中に遅咲きの小さな桜のピンクが溶けて、一幅の日本画を見るようだった。

さて、山頂から眼下に広がった芦ノ湖を後に、神山へと総勢18名は向かった。

風がとても強く、フードをかぶったまま樹海の老木の間を歩くこと一時間、かなりの急勾配を息を荒げて登りつめると、やっと一番高い神山へと着いた。そこで三々五々車座になり、楽しい昼食と語り。

帰り道は、大きな石のころがる道を、膝をガクガクさせながら下って行くと、ページをめくるように、硫黄の匂いと煙と大勢の観光客が現れ、「大湧谷」に出たのだ。正面に雄大な富士山がすばらしい眺め。富士山の麓駿河の国で、朝な夕な富士を仰いで育った私も、その静かなたたずまいは日本人の心のふるさとそのものだ、いつの日も飽きることはない。

NHKのテレビドラマ"大地の子"で、陸一心がこの場所で「フジサン 信濃富士」と繰り返し自分の故郷、ルーツの記憶をときほぐしていく感動的な場面もあった。

ハイキングは、美しい自然に親しみ、楽しむばかりでなく、団体行動をしてみても、普段気ままな行動をしている私に、サマリア人のように"他人をいたわる"とか、"見知らぬ人々の中でのマナー"など、学ばせてもらうことが多い。努めて外へ出ることを心がけようと思う。

当教会の中青年パワーはまだ健在です。山田さん、またお誘いをお願いします。次回ももう少しなだらかな所も良いかな?

5月11日、壮年会主催の春のハイキングに行っ  
てまいりました。参加者は登山が趣味でいらっ  
しゃる山田さんを筆頭に総勢18人。楽しくに  
ぎやかな一行でした。

今回のコースは駒ヶ岳⇒神山⇒大涌谷⇒  
箱根湯本でした。非常に大変そうな駒ヶ岳で  
もケーブルカーを使ったため、体力の衰えが  
ちである実年一行でも十分に楽しめる小旅行  
となりました。幸いにして晴天に恵まれ、こ  
の時期ならではの爽やかな春の山の空気を存  
分に味わって参りました。JR戸塚駅に7時半に  
集合。45分ほど東海道線に揺られて小田原駅  
まで行き、小田原駅からはバス、そしてケー  
ブルカーを利用して、駒ヶ岳山頂まであつと  
いう間に着いてしまいました。山頂付近は五月  
とはいっても、まだまだ萌ぎ始めの柔らかい  
若葉の季節でした。時々身体ごと飛ばされ  
てしまうのではないかと思います。うぐいすも  
鳴いていました。きくいなちげのかわいらしい  
花やこばいけい草などが目にとまります。春  
の蒸りのなかを楽しみながら歩きました。素  
晴らしい、お天気でした。澄んだ青い空を背  
景に見る山の新緑は、また格別のものです。  
そして昼食後、神山頂上から、大涌谷へと下  
ります。途中、富士山の眺めが素晴らしい場  
所があり、写真を撮ったりしました。大涌谷  
では、いつも変わらず硫黄のにおいがたちこ  
めています。大涌谷を流れる小川の水は地熱  
で温かでした。白い煙と沸騰している硫黄  
泉を見ると、改めて地球が生きていること  
を実感させられます。

日常の忙しさから離れて、しばし命の洗濯  
をしたような一日でした。一人の脱落者も出  
ることなく、無事故に終わることが出来て本  
当に良かったと思います。今回、残念ながら  
来られなかった方々も、是非次の機会に一緒  
できる事を願っております。



ミサ当番表 (96年6月、7月)

月/日	主日	朗読、奉納	オルガン	月/日	主日	朗読、奉納	オルガン	備考
6/2	三位一体の主日	小野	森田	7/7	年間第十三主日	石井	大宮	壮年会
6/9	キリストの聖体	青年会	大宮	7/14	年間第十四主日	青年会	岩淵	青年会
6/16	年間第十一主日	婦人会A地区	岩淵	7/21	年間第十五主日	婦人会B地区	石川	婦人会
6/23	年間第十二主日	滝川	石川	7/28	年間第十六主日	井上	森田	壮年会
6/30	年間第十三主日	婦人会A地区	森田					婦人会

※当番の方は10分前には集合して下さい。  
※ご都合の悪い方は典礼委員までお申し出下さい。(萩原: Tel 802-6258)